

平成 31 年度

熊本市エイズ総合対策 報告書

令和 2 年（2020 年）4 月

熊本市保健所 感染症対策課

熊本市エイズ総合対策 報告書

目次

1	平成 31 年度熊本市エイズ総合対策 概要	1
2	エイズ及び性感染症関係統計	2
3	平成 31 年度 熊本市エイズ対策事業報告	
(1)	平成 31 年度 熊本市エイズ及び性感染症対策事業	5
	①正しい知識の普及啓発（青少年、MSM、一般市民、他）	
	②相談検査体制の充実	
	③医療体制及び生活支援体制	
	④推進体制の整備	
(2)	平成 30～34 年度(2022 年度)H I V 感染および性感染症の予防対策（評価）	10
	①H I V 抗体検査数の増加	
	②性器クラミジア感染症報告数の減少及び梅毒報告数の減少	
(3)	平成 31 年度 検査利用者の状況について（受検者アンケート結果）	12
(参考資料)		
●	統計「エイズ及び性感染症の動向」	15
●	情報「第 154 回（令和元年 第 3・第 4 四半期）エイズ動向委員会 委員長コメント」から抜粋	20
	○委員長コメント（平成 30 年 年間報告（速報値））	
	○表 2 平成 30 年 12 月 30 日現在の H I V 感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計	
	○表 3 H I V 感染者及びエイズ患者の都道府県別累計報告状況	
●	熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱	23
●	熊本市エイズ対策のあゆみ	25

別冊 1 平成 31 年度 各団体での取り組みについて(報告)

別冊 2 ボランティアグループについて

1 平成 31 年度熊本市エイズ総合対策 概要

■本市の状況

(1) HIV感染者・エイズ患者の現状

- ① 累計のHIV感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者数の割合について、28 年は 26.3%、29 年は 16.7%と低く早期発見が進んでいると示唆されていたが、30 年は 40%、31 年は 57%と高かった（全国は約 30%で推移）。今後も予防啓発に取り組むとともに、検査普及啓発および検査体制についても強化する必要がある。
- ② 新規HIV感染者・エイズ患者報告数は、近年、年約 10 件程度で横ばい傾向にある。今後の感染予防と感染の早期発見のため、青少年への啓発を強化するのに加え、大人に対しても知識と意識の向上を図る必要がある。
- ③ 感染経路としては男性同性間の性的接触が最も多い。MSM（男性と性行為を行う男性をいう。以下同じ）への啓発に力を入れる必要がある。

(2) エイズ相談・HIV抗体検査件数

平成 31 年のエイズ相談・HIV抗体検査数は、1,355 件であり、わずかに増加傾向である（平成 30 年は 1,197 件）。

(3) エイズ対策事業（トピックス）

① 特例検査の実施

休日の特例検査を年3回実施し、のべ143人が受検した。（6月、9月、12月）

② MSM当事者グループとの協働

熊本のゲイ支援サークル「Safety Blanket」との取組みとして、ゲイクラブイベントでのコンドーム配布を行った。また、Safety BlanketのSNSを通して、ゲイコミュニティへ特例検査の周知を行った。今後も特に若いMSMへの啓発手法について検討を行い、取り組みを継続する。

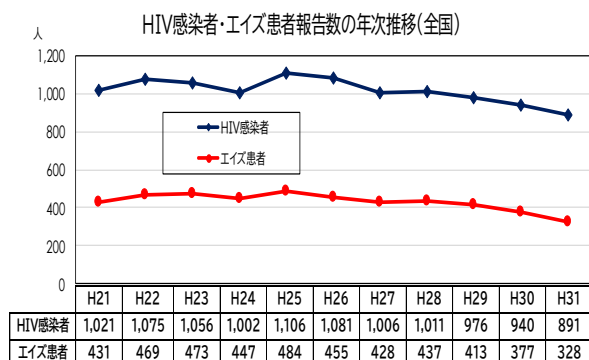
■エイズ・HIV感染症 最近の動向（全国）

- (1) 新規HIV感染者と新規エイズ患者報告数について、平成 30 年より減少しており、3 年連続で減少した（速報値）。また、全体に占めるエイズ患者数の割合は、約 3 割で推移している。
- (2) 感染経路としては性的接触によるものが 8 割を占めている、HIV感染症は予防が可能な感染症であり、感染していない方は適切な予防策をとること、感染した方は、まずは自分の感染を知ることが今後感染拡大防止のために重要である。

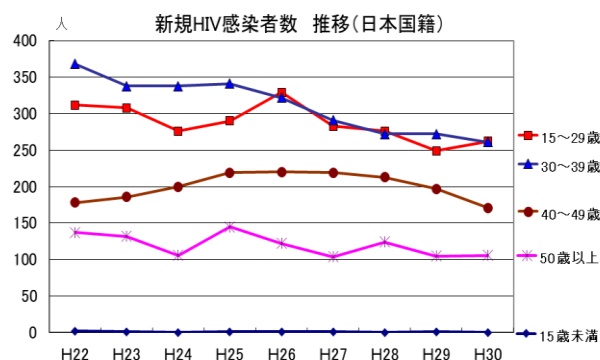
2 エイズ及び性感染症関係統計

* 全国の 31 年は速報値

(1) HIV感染者及びエイズ患者報告数推移（全国）

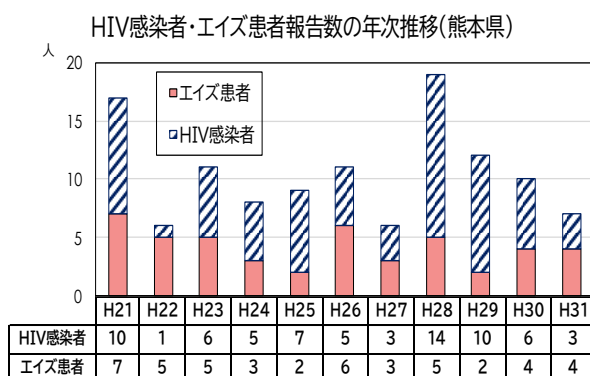


新規HIV感染者と新規エイズ患者報告数について、平成30年より減少しており、3年連続で減少した。

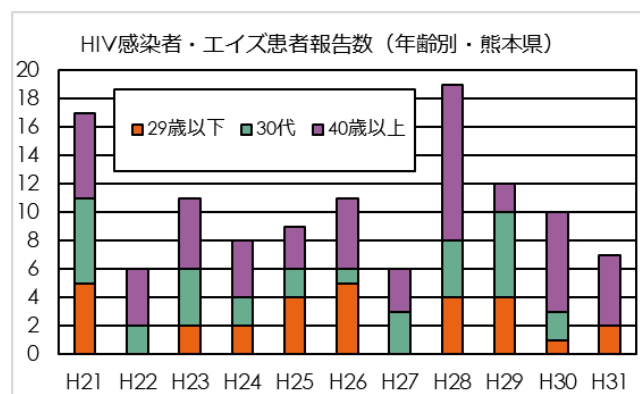


15歳未満を除く全ての年代で、報告数が減少した。

(2) HIV感染者及びエイズ患者報告数推移（熊本県）



年により増減があるものの、概ね年 10 件程度で推移していたが、この数年は減少傾向にある

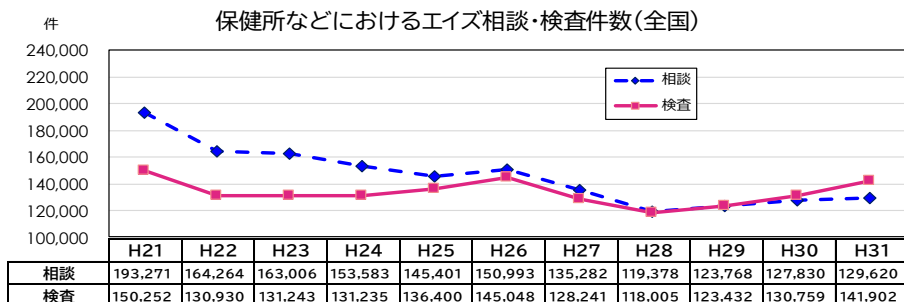


平成 31 年の新規報告は、40 歳以上が 7 割を占め、30 代はゼロだった。

HIV 感染者・エイズ患者報告数に占める エイズ患者の割合	熊本県	全国	東京
累計(昭和 60 年～平成 29 年)	38.8%	31.0%	23.1%
過去 5 年(平成 27～31 年)	33.3%	29.1%	18.6%
平成 30 年	40.0%	28.6%	17.0%
平成 31 年	57.1%	26.9%	17.1%

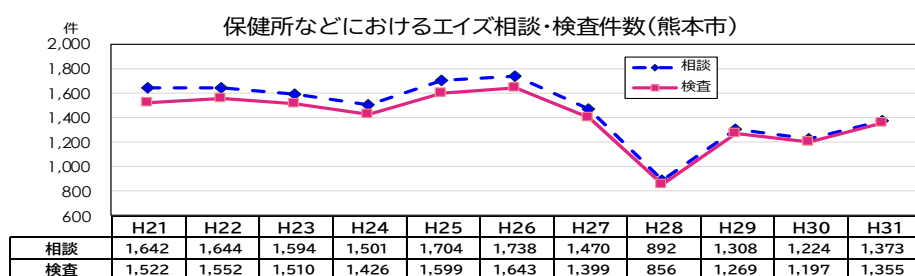
熊本では、HIV 感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者の割合は、平成 30 年 40.0%、平成 31 年 57.1%と、全国に比べて高い傾向にある。

(3) 保健所などにおけるエイズ相談・検査件数(全国)



平成22年以降、
年14～12万件程
度で推移してい
る。

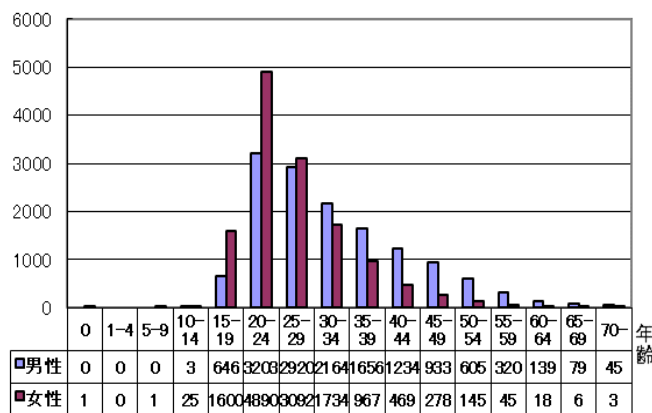
(4) エイズ相談・検査件数(熊本市)



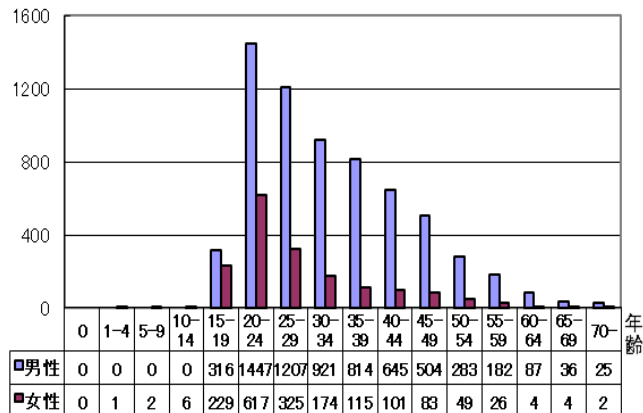
平成28年は、熊
本地震の影響で前
年の6割程度の検
査数だった。
平成31年は増加
したが、震災前より
は少ない。

(5) 性器クラミジア・淋菌感染症 定点医療機関報告数(全国・熊本市)

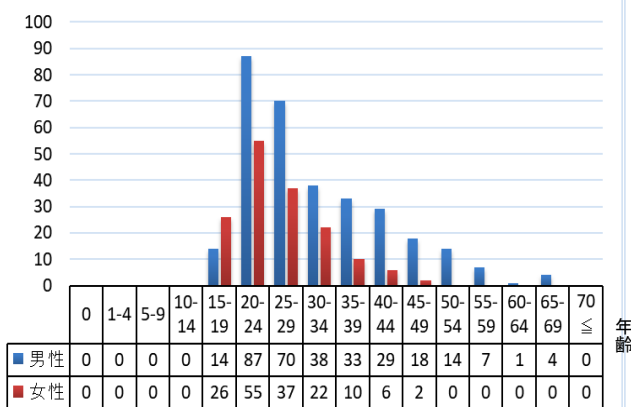
H31年 性器クラミジア感染症 定点報告数(全国)



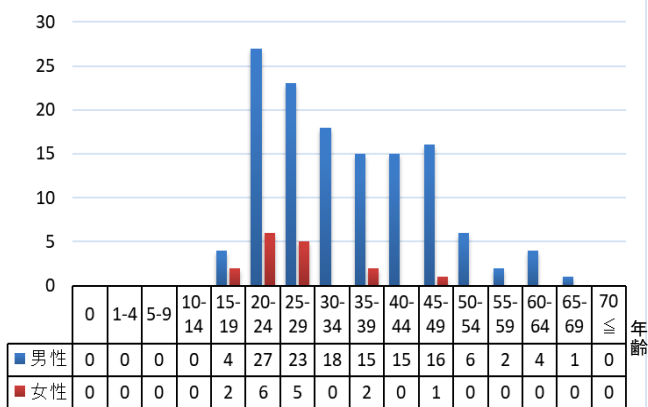
H31年 淋菌感染症 定点報告数(全国)



H31年 性器クラミジア感染症 定点報告数(熊本市)

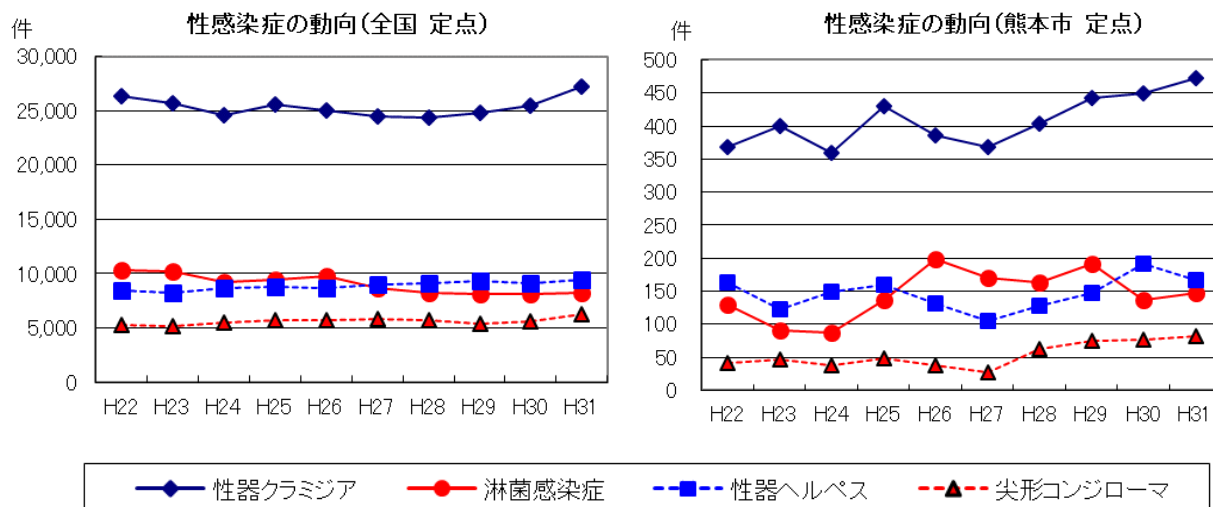


H31年 淋菌感染症 定点報告数(熊本市)



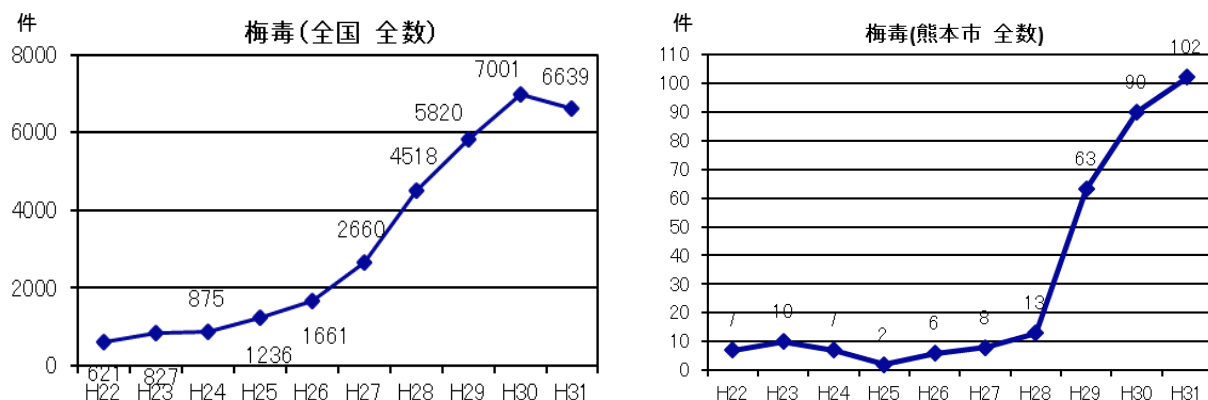
性器クラミジアは10代を除き、女性より男性の方が多かった。20代前半で男性が女性の報告数を上回ったのは、平成12年以降初めて。淋菌感染症はほとんどが男性で、特に20～40代に多かった。

(6) 性感染症（定点把握）の動向（全国・熊本市）



全国的に4疾患とも、平成22年頃からほぼ横ばいで推移していたが、平成31年はクラミジアが少し増加傾向を示した。熊本市では、特にクラミジアおよびコンジローマが27年から増加している。

(7) 梅毒（全数把握）の動向（全国・熊本市）



平成31年の報告数は、全国ではやや減少傾向を示したが、熊本市では増加を続けている。

※定点把握：STD定点医療機関から月1回の報告により、発生状況を把握。（熊本市STD定点数6）
 ※全数把握：梅毒は、診断した医師からの7日以内の届出により把握

出典 （全国、県の統計：厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告）

3 平成 31 年度 熊本市エイズ対策事業報告

(1) 平成 31 年度 熊本市エイズ及び性感染症対策事業

① 正しい知識の普及啓発

個別施策層への対策及び広く一般市民に向けての啓発を行った。

【青少年】教育委員会や学校と連携し、大学生ボランティア等と協力しながら実施した。

【教育関係】

- 高校・専門学校への講師派遣事業 8 回 2,874 人（高校 5、専門 3）
- 出前講座（性感染症予防講座） 13 回 1,606 人（中学 13）

【啓発活動】

- イベントでのキャンペーン 平成 31 年 12 月 「健康教室」～あなたの夢をかなえるからだの楽校（がっこう）～
- ピアエデュケーターとの協働 熊本大学保健学科、養護教諭養成過程学生
(熊本大学ピアカウンセリンググループ「くまぴあ」)

【啓発物作成・配布・貸出し】

- 中学生向けオリジナルパンフレット 改訂・出前講座時に配布
- 啓発物配布（キャンペーン、研修会、見学実習など）
- パンフレット提供（購入分） 各団体、学校、事業者等へ
- 教育用 DVD 貸出し（児童相談所、中学校等）

【外国人】

- 外国人受験者向け検査前説明プリント及び結果説明プリントの活用
- 外国語パンフレット配布
- 市ホームページ掲載（英語版）

【MSM（男性間で性行為を行う者をいう。以下同じ）】

セクシュアリティに配慮しながら啓発活動や検査相談事業を行っている。また、MSM 当事者グループとの協働により様々な取り組みを行った。

【ボランティア団体との協働】

熊本のゲイ支援サークル「Safety Blanket」との情報交換やゲイコミュニティへの啓発等を行った。

- HIV 検査普及啓発：Safety Blanket より SNS にて特例検査等の周知
- 担当者打合せ（随時）：情報交換や打合せを継続実施
- 講演会の開催：LGBT 支援団体「くまにじ」と共催
- 啓発物配布：コンドームやチラシをゲイバーやゲイクラブイベントで配布。

【相談室】

- パンフレット及びステッカー添付コンドームの陳列（持ち帰り自由）

【ホームページ】

- HIV 検査の案内記事へ、関連情報とともに、ゲイ・バイセクシャル男性向け情報も掲載。

【性風俗産業従事者利用者】一般市民へのアプローチを行う中で情報収集や啓発を行っている。

- 検査相談利用時に個別に情報提供

【薬物乱用者】一般市民へのアプローチを行う中で、情報収集や啓発を行っている。

- 情報収集

【一般市民】働く世代の若者を主ターゲットに、関係各課や各種団体、ボランティアグループ等と協力しながら、啓発物の配布・掲示やキャンペーンを行った。

【マスコミ】

- 広報：ラジオ 4 回
- 市政だより：6 月号、12 月号
- 取材対応 ・テレビ 3 回 広報誌 1 回

【啓発物作製・配布】

- H I V検査案内チラシ・カードの作製・配布 随時
- エイズ予防啓発ポスター
 - ・H I V検査普及週間・エイズデー啓発ポスターによる啓発
 - ・特例検査お知らせポスターの掲示・送付
- ウェルパルクまもと1階ロビーに啓発パンフレットを配置（常時）
- 保健所、区役所でのパンフレット・啓発物配布（必要時）
- H I V検査広報ステッカー掲示
 - ・本庁舎トイレ、ウェルパルクまもとトイレ、市電・バス車内への掲示（継続）
 - ・事業所、学校等への提供 随時

【イベント】

- 講演会 セクマイ当事者も支援者も知っておきたいお金や制度の活用方法～にじ色ライフプランニング入門～
 - ・11/26（土）Safety Blanket、くまにじと合同で、講演会を行った。
- 学校保健会主催イベント「からだの楽校」での啓発キャンペーン
 - ・12/1（日）熊本市学校保健会（健康教育課）主催イベントにて小学生及び保護者向けのキャンペーンを実施。ボランティア（学生）4人が参加。
 - ・（内容）ブースでの啓発（エイズクイズ、パネル展示）、レッドリボンのリース作り
- 巡回パネル展「HIV×（日常）×わたし。」
 - ・ウェルパルクまもと1階玄関ホール（6月、12月）

【ホームページ】

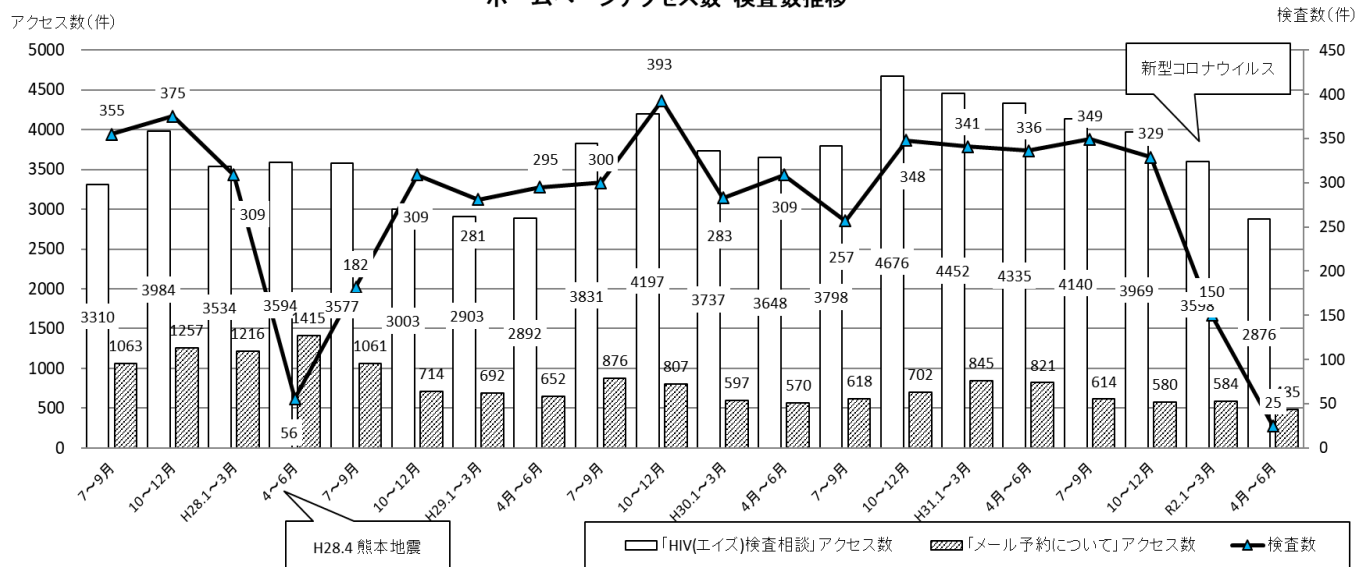
- 熊本市ホームページ及び携帯電話ホームページサイトを利用した情報発信、ホームページ内容の改善・随時更新

※熊本市ホームページ内「H I V（エイズ）検査のお知らせ」（スマートフォン対応）URL https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/Detail.aspx?c_id=5&id=3355

- アクセス数（件）（スマートフォン用QRコード⇒）
「熊本市H I V（エイズ）検査相談」 31年 16,896（月あたり 1,408）
「メール予約について」 31年 2,860（月あたり約 238）



ホームページアクセス数・検査数推移



②相談検査体制の充実

【検査相談体制】

●エイズ相談・検査

通常検査（予約制）	月～金曜日	9：00～11：00
即日検査（予約制）	月～金曜日	13：00～15：00

●特例検査・臨時検査 日曜に即日検査を臨時で行った（3回※）。

- ・6月16日（日） 14：00～15：00（予約不要） 受検者 59人
- ・9月29日（日） 14：00～15：00（予約不要） 受検者 32人
- ・12月15日（日） 14：00～15：00（予約不要） 受検者 52人

※令和元年9月は台風の影響で受検者が少なかった。また、令和2年3月は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

●メール予約 平日午後（13：00～15：00）の即日検査が対象

- ・利用実績 31年：予約成立数 178件（平日即日検査数 893件の19.9%）

※メールでの問合せ数（予約不成立含む）278件

【31 年実績（件）】

相談数 1,373 検査数 1,355 クラミジア抗体検査 1,245、梅毒検査 1,268

- ・日曜（再掲）相談 204 検査 204
- ・即日（再掲）相談 1,097 検査 1,097

【相談業務の充実（研修会参加等）】

- 「H I V／エイズ基礎研修（大阪）」エイズ予防財団 7／12（1 日間）1 名
- 「平成 31 年度エイズ対策研修」国立保健医療科学院 9／17～20（4 日間）1 名
- 「九州ブロックエイズ拠点病院研修会」国立病院機構九州医療センター
10／18（1 日間）1 名

③医療体制及び生活支援体制

【医療体制】 検査陽性時に拠点病院の受診に同伴（希望時）

感染者・医療担当者との情報交換

【生活支援体制】 必要時、ホームヘルパー等に HIV に対する正しい知識を提供

【福祉制度】 身体障害者手帳及び更生医療による医療費助成・福祉サービス

※申請窓口：障がい保健福祉課

④推進体制の整備

【熊本市エイズ総合対策推進会議】

会議 8 月開催、報告書作成、エイズ対策の目標値（指標）の実動計画、実施

【NGO とのパートナーシップ推進】

ボランティア団体との協働、情報提供（研修会など）

(2) 平成 30～令和 4 年度 (2022 年度) HIV 感染および性感染症の予防対策 (評価)

指標及び目標値

1 HIV 抗体検査数の増加

(現状) 平成 29 年 : 1,269 件 ⇒ (目標) 令和 4 年 (2022 年) : 1,780 件

2 性器クラミジア感染症報告数の減少

(現状) 平成 29 年 : 430 件 ⇒ (目標) 令和 4 年 (2022 年) : 324 件

3 梅毒報告数の減少 (新規)

(現状) 平成 29 年 : 63 件 ⇒ (目標) 令和 4 年 (2022 年) : 10 件

① HIV 抗体検査数の増加

【施策 (実施内容)】

● 相談検査体制の充実

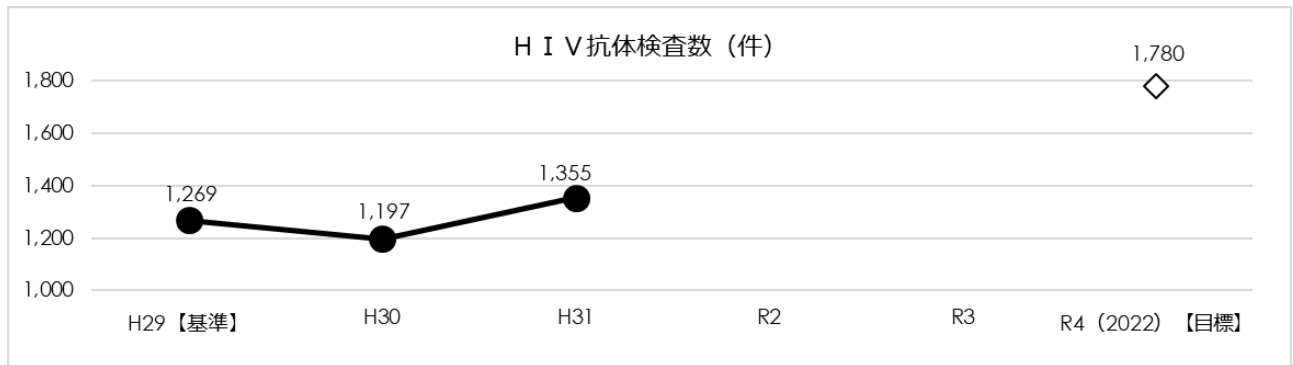
- ・ 予約不要の休日検査 (特例検査) を実施
- ・ プライバシーに配慮した体制、相談員研修の充実、メールによる予約受付

● 検査に関する広報の充実

- ・ ホームページ改善、ポスター、ステッカー、検査啓発カード等の作成・配布
- ・ 高校・専門学校への講師派遣時に感染症対策課職員が熊本での現状と検査について講話
- ・ 学校でのキャンペーンや街頭キャンペーンでのアピール
- ・ Safety Blanket による広報 (SNS 等)、ゲイコミュニティへの啓発物配布

【実績】平成 31 年は相談数、検査数ともに前年より増加した。即日検査の割合が前年より減少した。

年	H29 【基準】	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022) 【目標】
HIV 抗体検査数 (件)	1,269	1,197	1,355			1,780
(再掲) 通常検査 (件)	200	176	258			
(再掲) 即日検査 (件) (検査数に占める即日検査の割合)	1,069 (84.2%)	1,021 (85.3%)	1,097 (80.9%)			
エイズ相談数 (件)	1,308	1,224	1,373			



【評価】検査態勢縮小の影響で検査数が減少していたが、平成 31 年は前年より増加した。

今後は、検査数の増加だけでなく、リスクグループ（青少年、MSM 等）の利用をいかに増やしていくかに焦点を当てた取組みを行っていく必要がある。

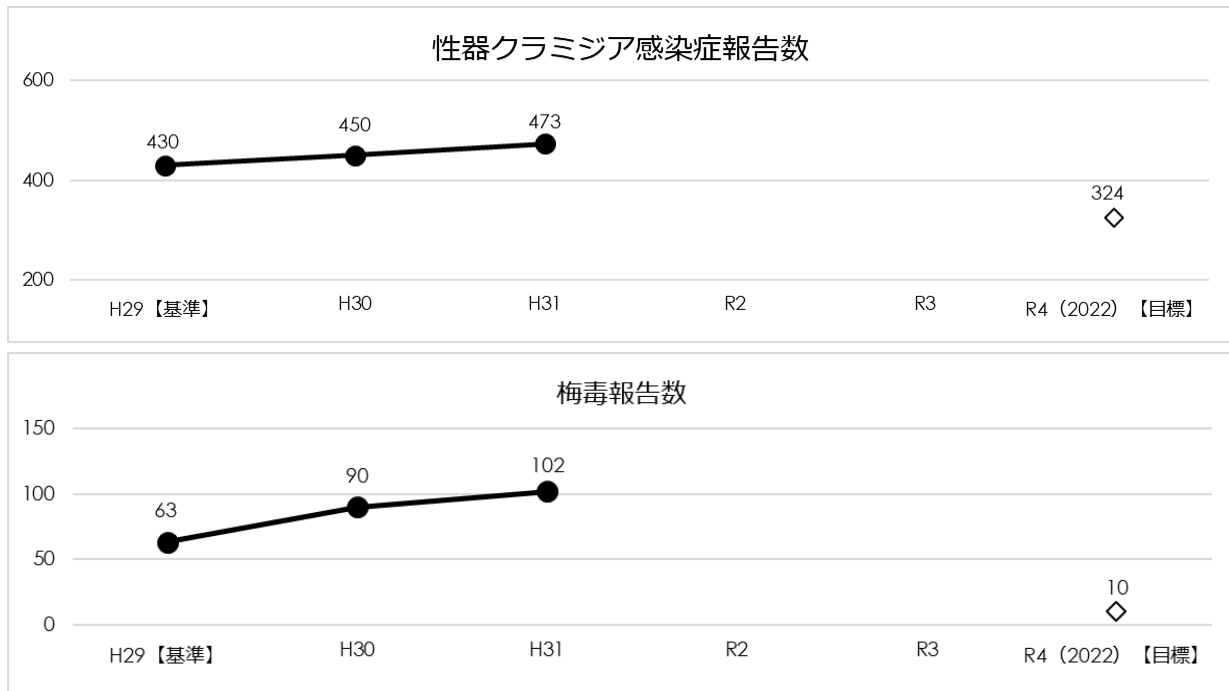
②性器クラミジア感染症報告数の減少及び梅毒報告数の減少

【施策（実施内容）】

- 性感染症予防教育の実施：中学 3 年生、高校生等への出前講座、高校への講師派遣事業、保護者や企業等への研修会等のアプローチ
- 高校・専門学校への講師派遣時に感染症対策課職員が熊本での現状と検査について講話
- 性感染症啓発チラシ及びパンフレットの作成・配布

【実績】平成 31 年は、どちらも前年より増加した。

年	H29 【基準】	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022) 【目標】
性器クラミジア感染症報告数 (件)	430	450	473			324
梅毒報告数 (件)	63	90	102			10



【評価】全国的にも性器クラミジア感染症報告数はやや増加しており、梅毒は急増傾向にある。今後も引き続き報告数減少に向けて取り組む必要がある。

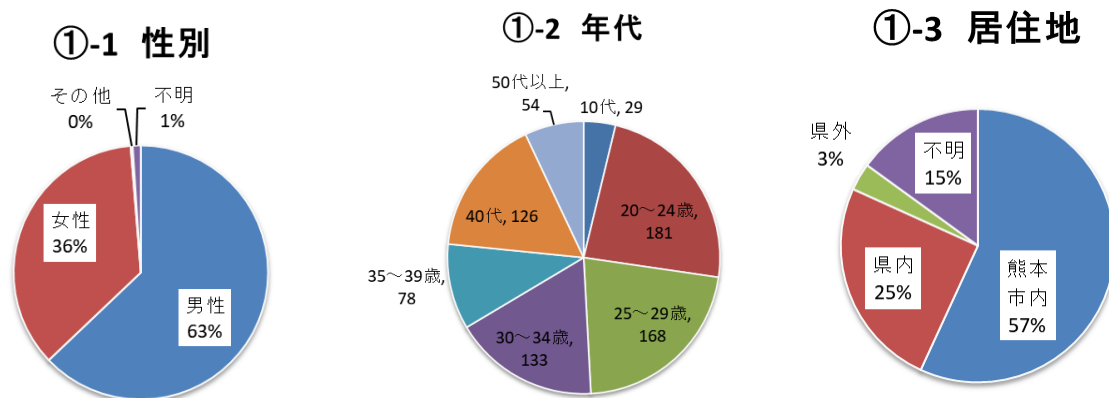
（３）平成 31 年度 検査利用者の状況について（受検者アンケート結果）

平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月に即日検査（特例検査除く）を利用した方へ、結果通知後に任意でアンケート調査を行った。アンケートの回収はアンケートボックスにて行い、個人が特定されないことを周知した上で回答してもらった。

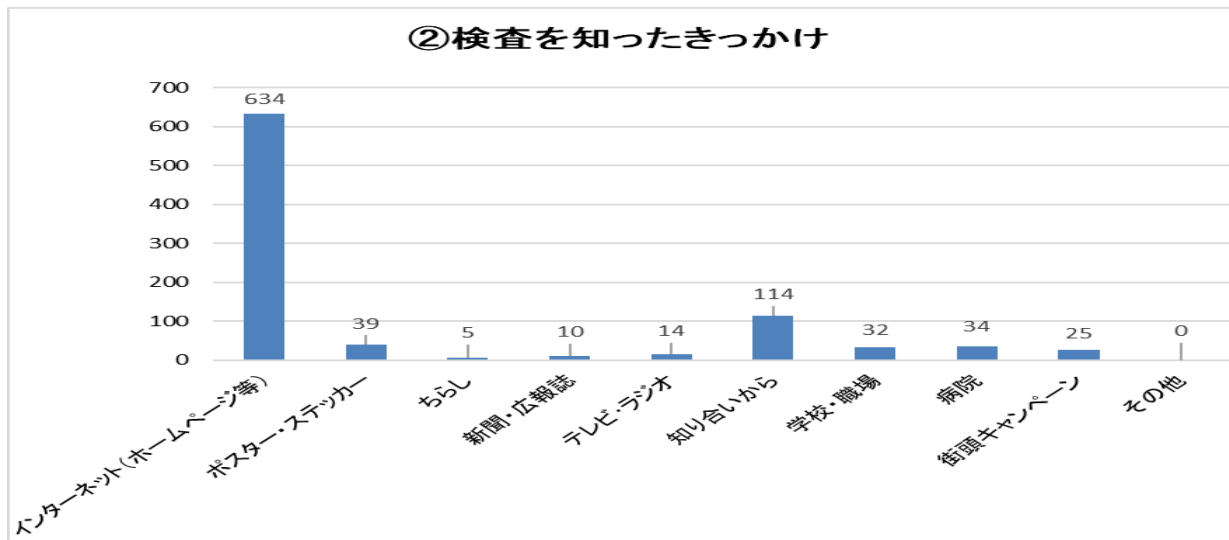
【結果概要】30 代以下の利用が 7 割以上あり、ターゲットとしている若い世代への啓発が比較的効果的にできていると考えられた。検査を知ったきっかけとしては、インターネットが最も多いことから、今後も、ホームページの工夫や、SNS 等を活用した啓発を続けることが望ましい。また、約 3 割の方が 2 回以上、本市保健所を利用しており、安心して受けられる体制であることが浸透していることが示唆された。

【アンケート結果】アンケート回答数 776 件（対象検査数 818 件、回答率 94.9%）

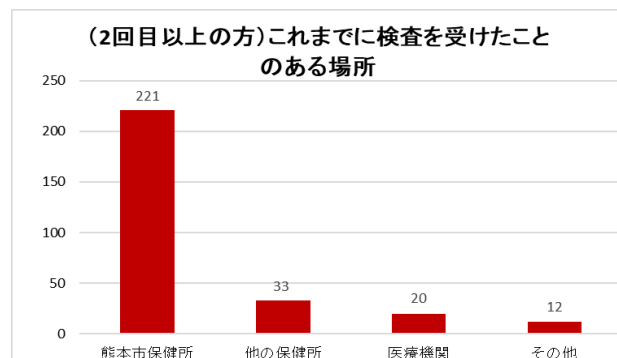
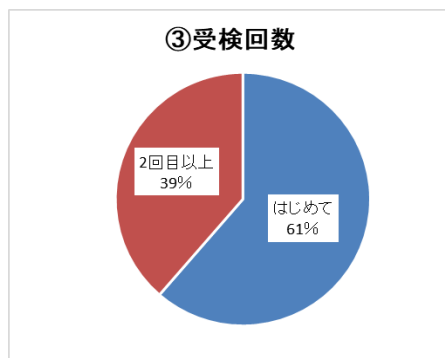
①利用者の属性：男性が全体の 63%を占めていた。10 代では女性の割合が多く、20 代は男女同程度、30 代以上は男性の割合が多い傾向にあった。全体の 57%が市内にお住まいだった。



②検査を知ったきっかけ：インターネットが最も多く、次いで知り合いから（口コミ）が多い。インターネット検索に至った背景として、潜在的にはポスターやチラシ、報道等による広報の効果もあると考えられる。



③受検回数：61%の方がはじめて検査を受けていた。2回目以上の方は、ほとんどが本市保健所を利用しており、定期的な受検ができていると考えられた。また、他の保健所や医療機関との回答もあり、ニーズに合わせて様々な検査の機会を利用していた。

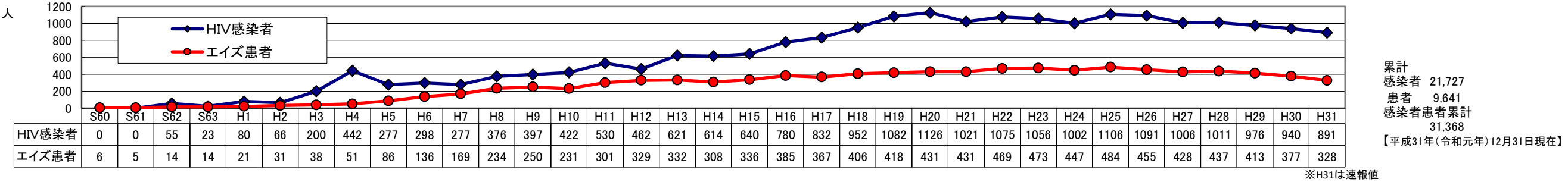


【今後について】

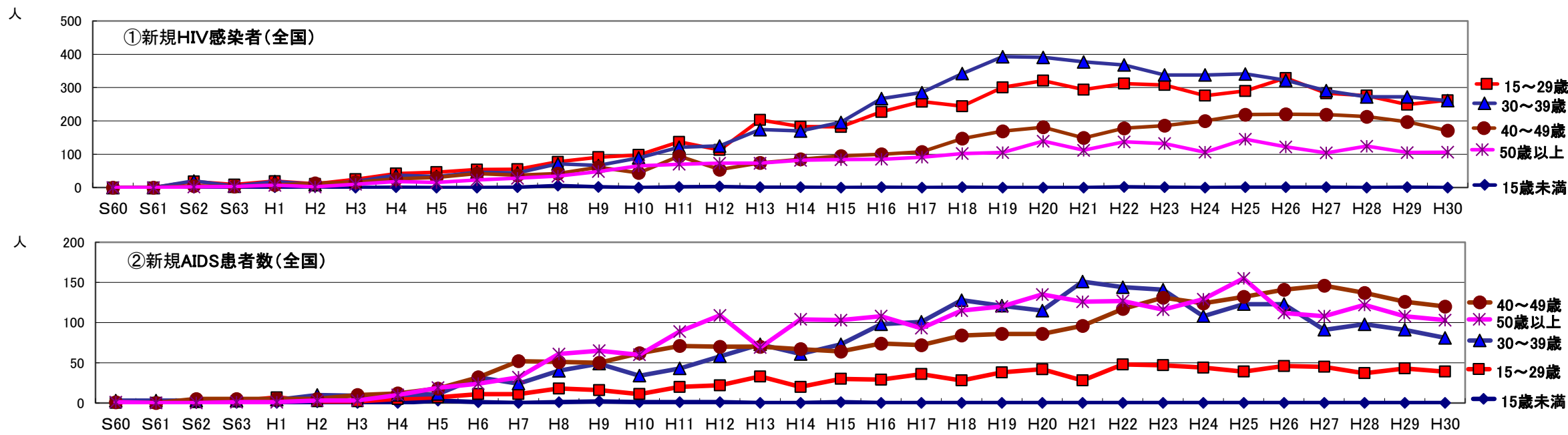
- ・今後も若い世代への啓発・教育を継続するとともに、各関係機関やボランティアグループ等と連携して効果的な啓発方法を検討していく。
- ・検査体制の整備については、引き続き、市民の利便性に配慮して行っていく。特に、リスクがあると考えられる方への対応等については、有識者の意見等も参考にしながら実施していく。

(参考資料)統計「エイズ及び性感染症の動向」
■全国のHIV感染者・エイズ患者報告数推移

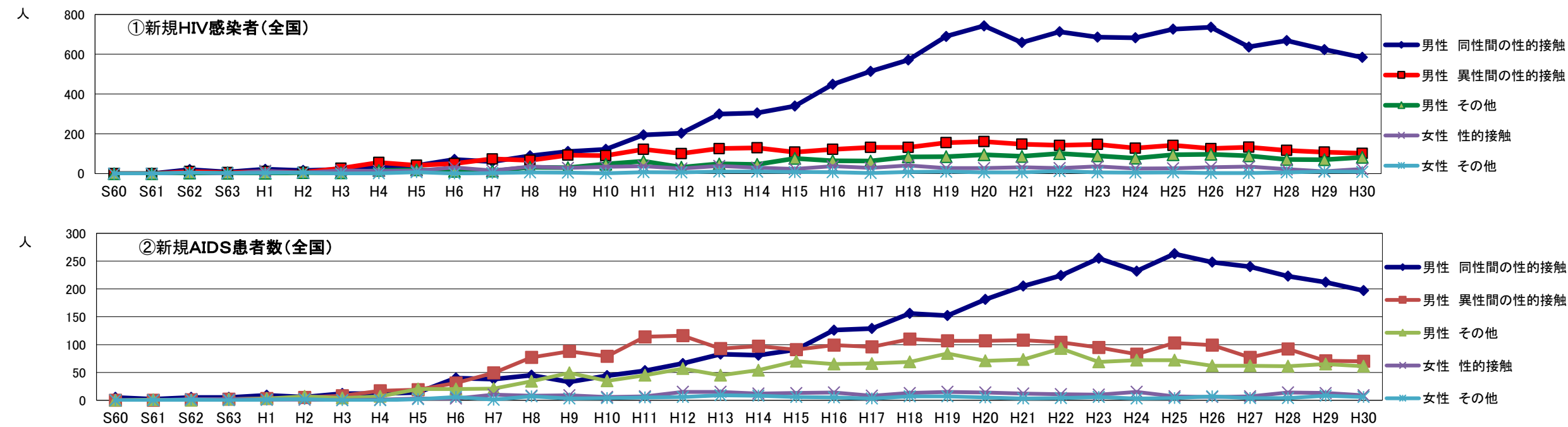
1. 年次推移(全国)



2. 年齢階級別推移 (日本国籍のみ)



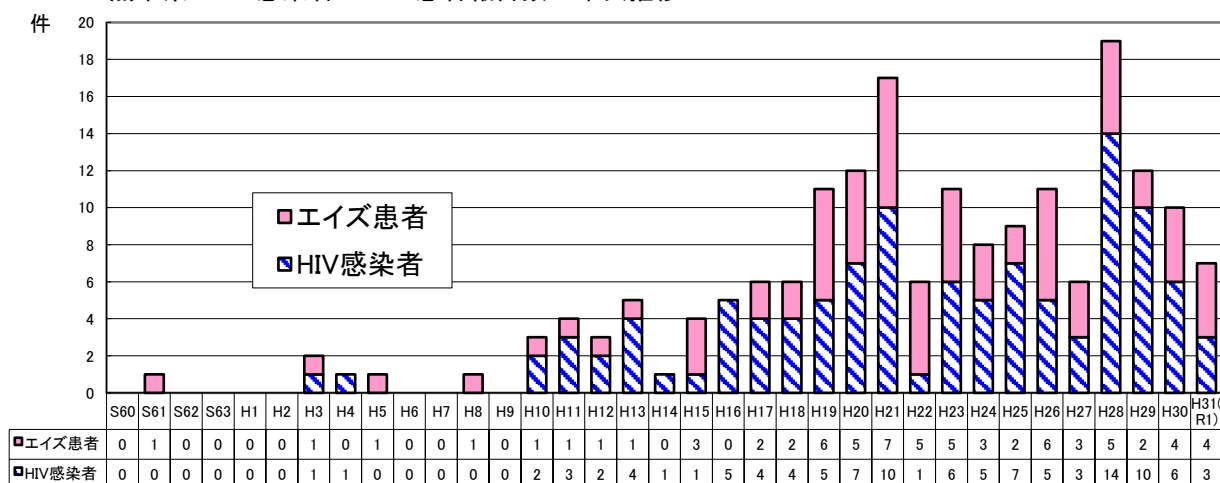
3. 感染経路別推移 (日本国籍のみ) ※同性間は両性間を含む。その他は不明を含む。



出典 1～3: 厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告

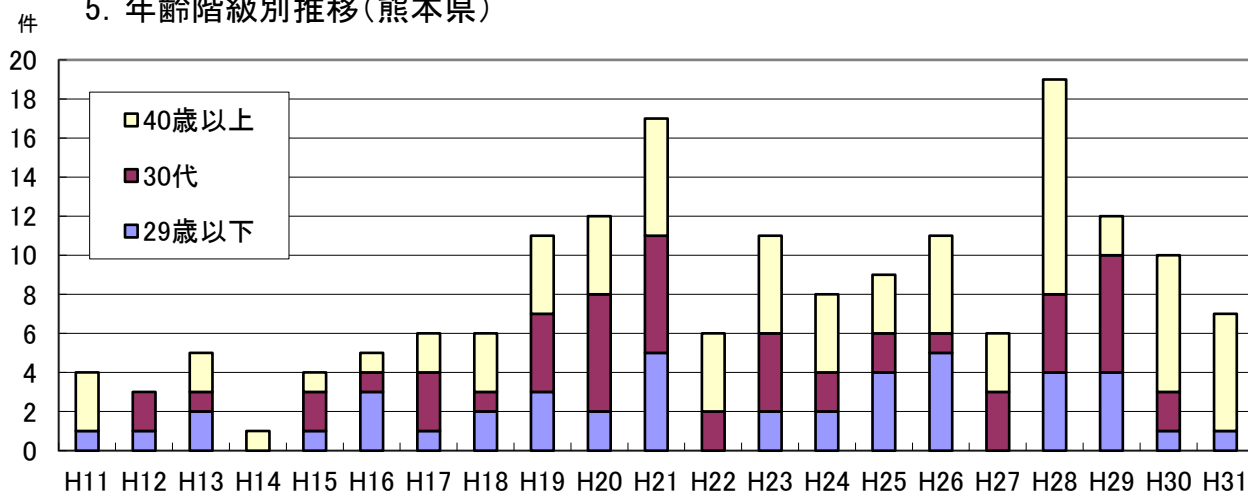
■熊本市のHIV感染者・エイズ患者報告数推移

4. 熊本市のHIV感染者・AIDS患者報告数の年次推移

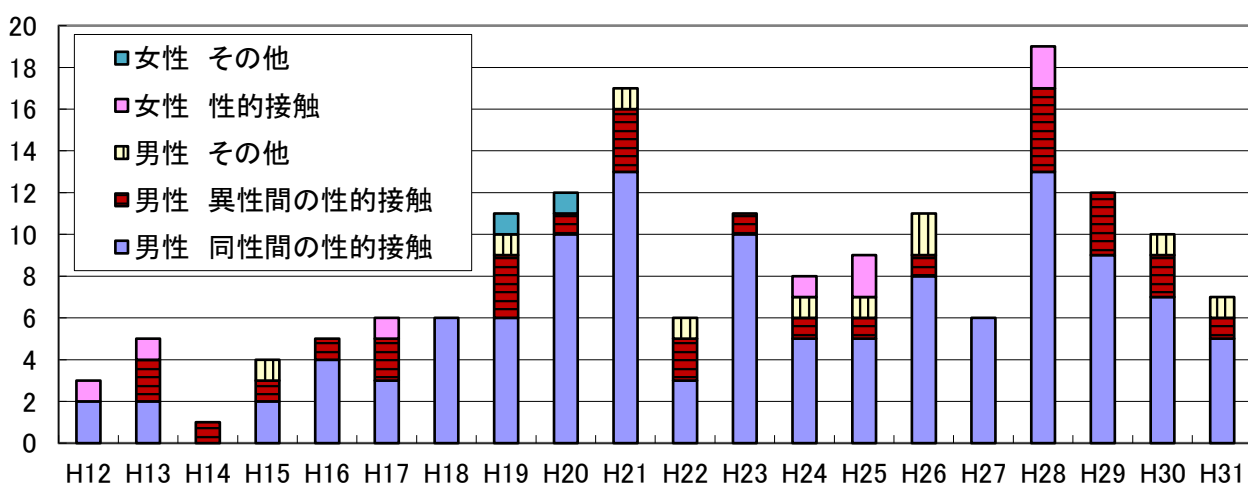


感染者累計 110
患者累計 72
感染者患者累計 182

5. 年齢階級別推移(熊本市)



6. 感染経路別(熊本市)

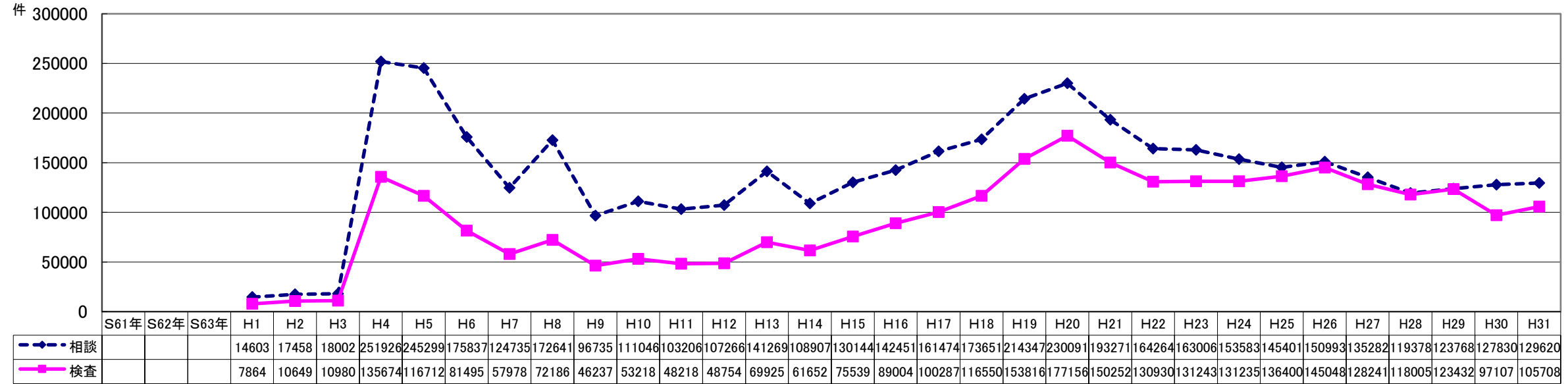


※同性間は両性間を含む。その他は不明を含む。

出典 4～6: 感染症発生動向調査事業

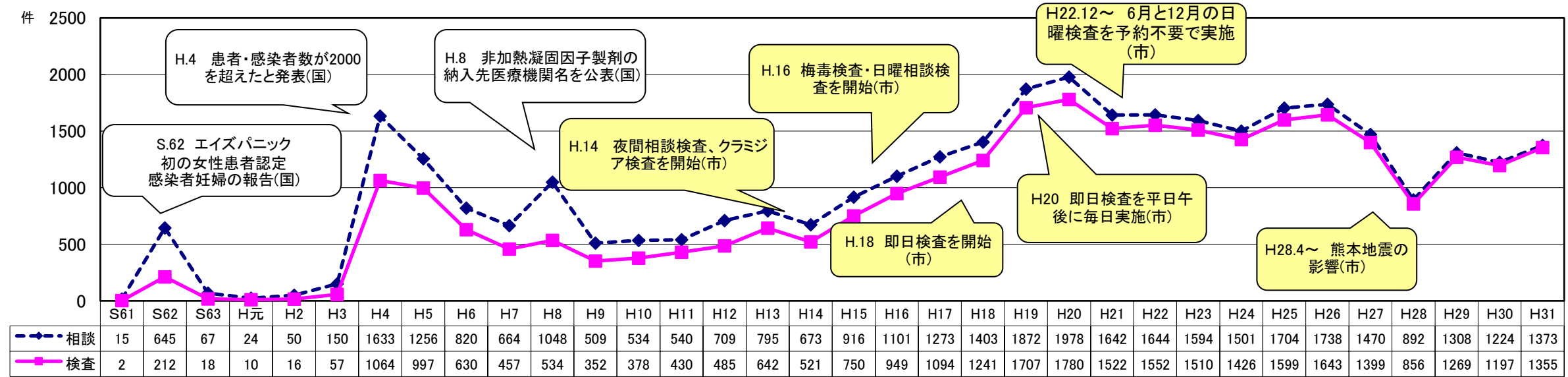
■エイズ相談・検査数推移

7. 保健所などにおけるエイズ相談・検査件数(全国)



出典 7 :厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告

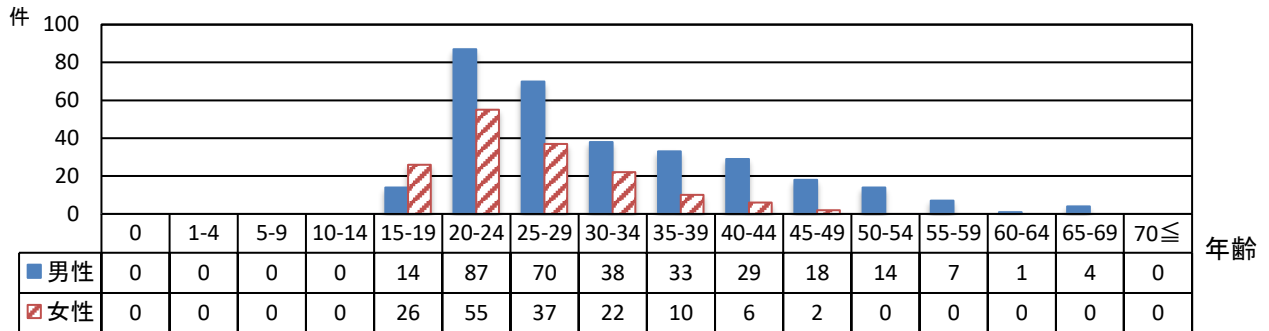
8. エイズ相談・検査数の推移(熊本市)



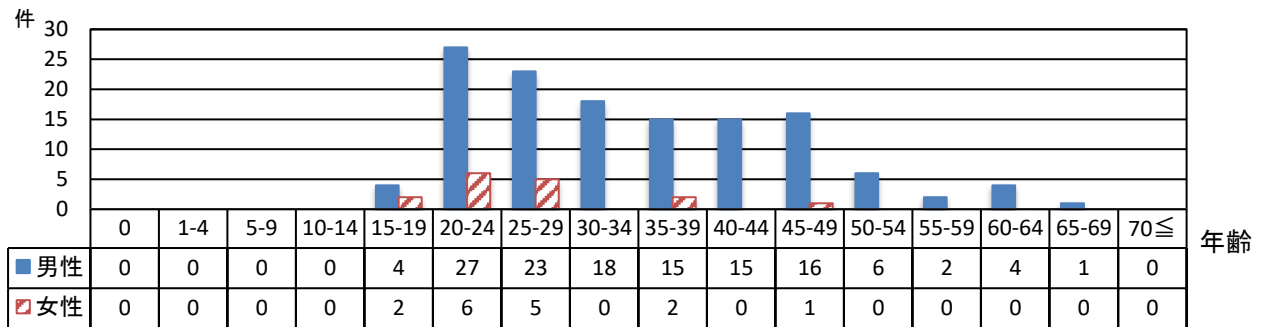
■性感染症の発生動向

※定点把握：STD定点医療機関から月1回の報告により発生状況を把握
(平成25年1月から熊本市のSTD定点数が5から6に増加)

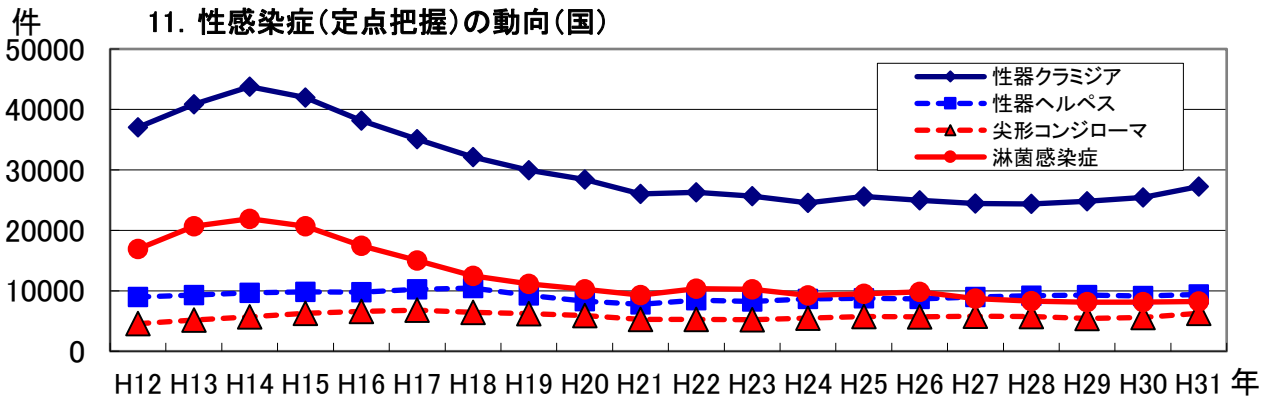
9. 平成31(令和元)年 熊本市 性器クラミジア感染症 定点医療機関報告数



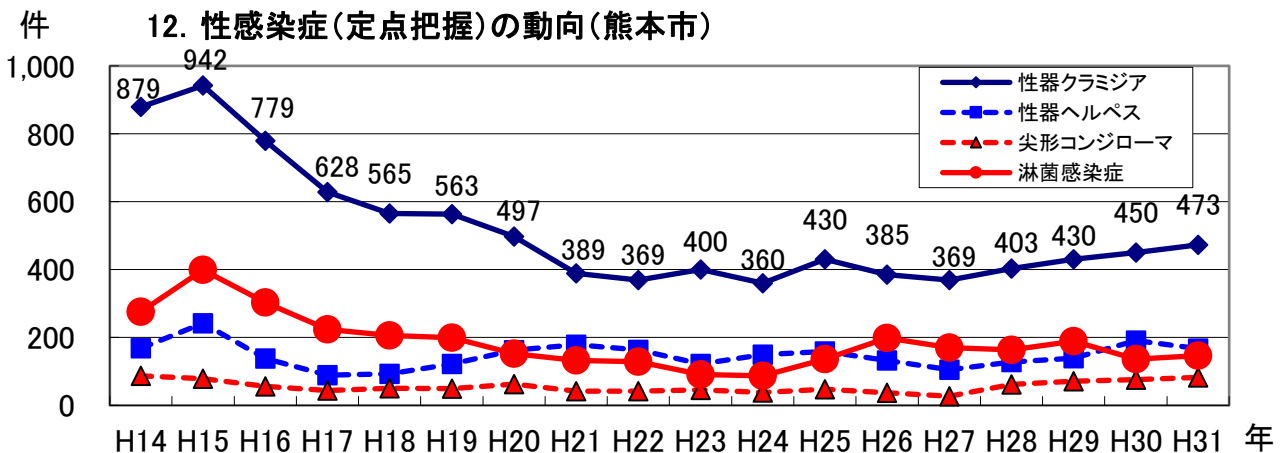
10. 平成31(令和元)年 熊本市 淋菌感染症 定点医療機関報告数



11. 性感染症(定点把握)の動向(国)



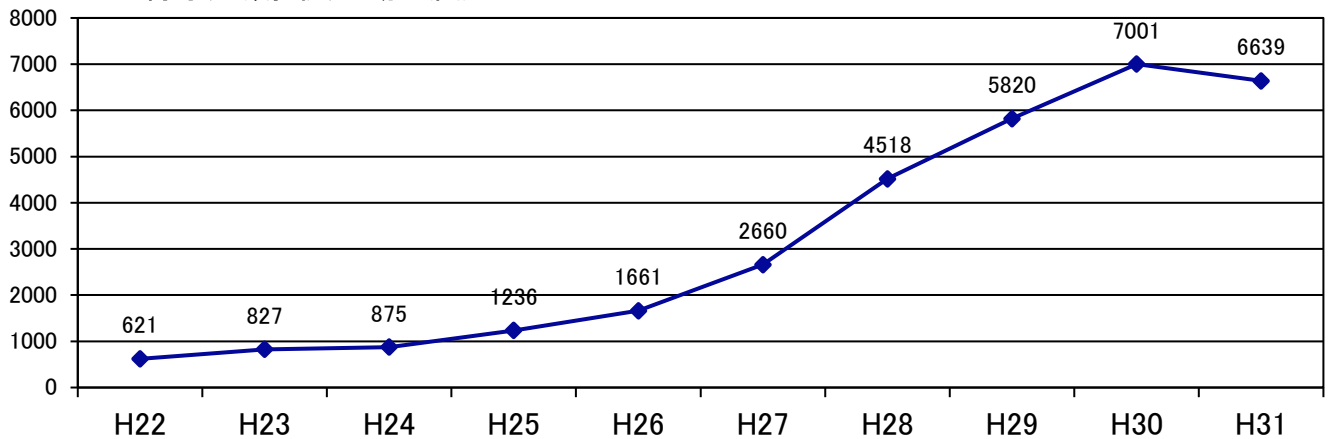
12. 性感染症(定点把握)の動向(熊本市)



■梅毒の動向

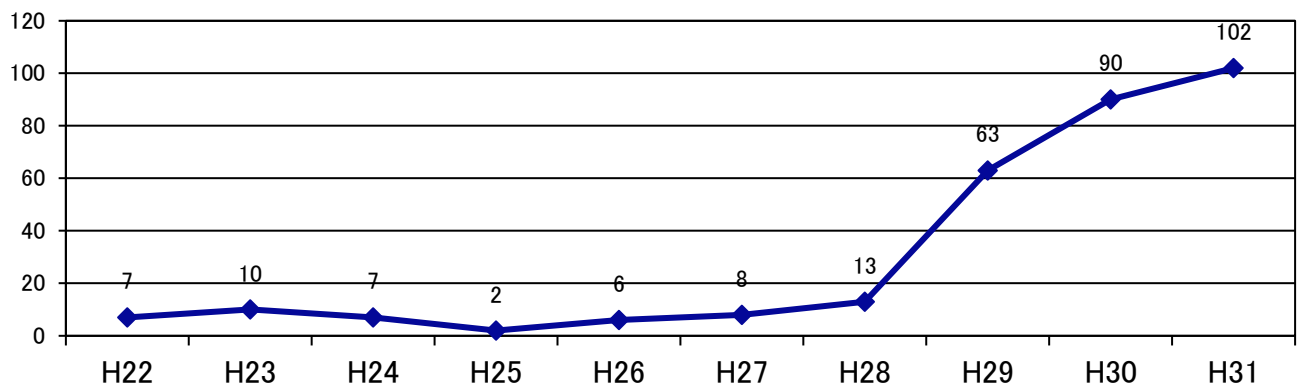
※全数把握：診断した医師からの7日以内の届出により全数を把握

件 13.梅毒(全数把握)の動向(国)

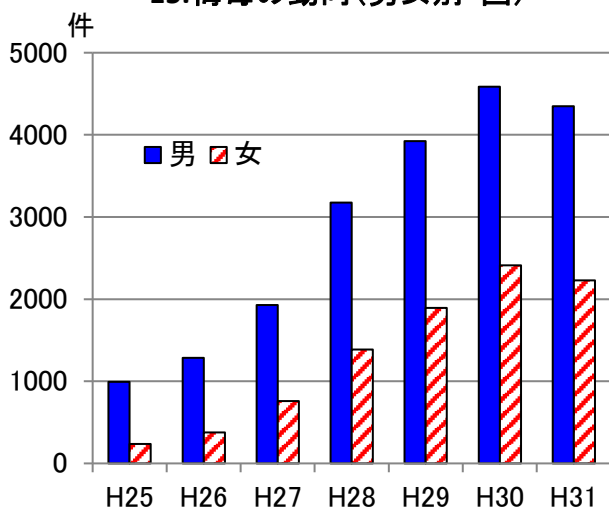


出典 13、15:感染症発生動向調査事業

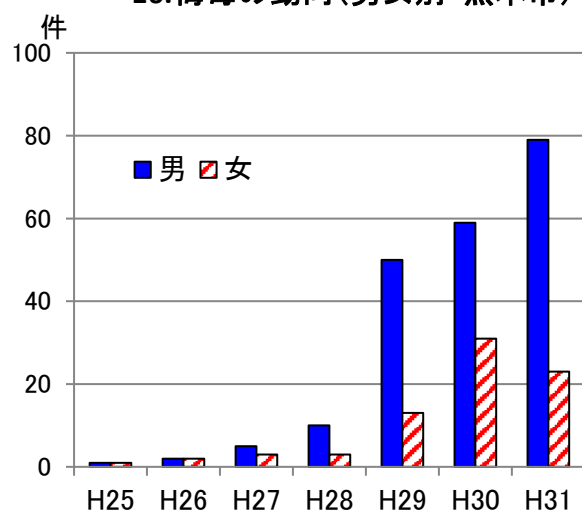
件 14.梅毒(全数把握)の動向(熊本市)



件 15.梅毒の動向(男女別・国)



件 16.梅毒の動向(男女別・熊本市)



《令和元年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（速報値）》

令和2年5月11日発行
「第154回（令和元年 第3・第4四半期）
エイズ動向委員会 委員長コメント」より抜粋

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和元年の約1年間
(平成31年1月1日～令和元年12月29日までの四半期ごとの合計)
2. 新規HIV感染者報告数は、891件（過去20年間で、14番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、328件（過去20年間で、19番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は 1,219件（過去20年間で、14番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが 639件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが 136件（全HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは 2件
 - 母子感染によるものは 0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが 176件（全AIDS患者報告数の約53%）
 - 異性間性的接触によるものが 55件（全AIDS患者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは 1件
 - 母子感染によるものは 1件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成31年1月～令和元年12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（速報値）は 141,902件（過去20年間で、5番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（速報値）は 129,620件（過去20年間で、15番目の件数）

《まとめ》

1. 速報値ではあるが、令和元年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成30年より減少しており、3年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性件数は昨年と比べて同数であった。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を利用いただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、依然として約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。

感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報

令和元年12月31日現在のHIV感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計

診断区分	感染経路	日本国籍			外国国籍			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
HIV感染者	合計	17,197	1,024	18,221	2,008	1,498	3,506	19,205	2,522	21,727
	異性間の性的接触	3,199	831	4,030	496	883	1,379	3,695	1,714	5,409
	同性間の性的接触 ^{*1}	12,208	4	12,212	919	1	920	13,127	5	13,132
	静注薬物使用	43	2	45	31	3	34	74	5	79
	母子感染	17	10	27	7	9	16	24	19	43
	その他 ^{*2}	377	41	418	80	33	113	457	74	531
	不明	1,353	136	1,489	475	569	1,044	1,828	705	2,533
エイズ患者	合計 ^{*3}	7,797	422	8,219	991	431	1,422	8,788	853	9,641
	異性間の性的接触	2,353	277	2,630	319	237	556	2,672	514	3,186
	同性間の性的接触 ^{*1}	3,850	3	3,853	208	2	210	4,058	5	4,063
	静注薬物使用	30	4	34	28	3	31	58	7	65
	母子感染	10	3	13	1	6	7	11	9	20
	その他 ^{*2}	235	26	261	34	17	51	269	43	312
	不明	1,319	109	1,428	401	166	567	1,720	275	1,995
HIV感染者+エイズ患者	合計	24,994	1,446	26,440	2,999	1,929	4,928	27,993	3,375	31,368
凝固因子製剤による感染者 ^{*4}		1,422	18	1,440	—	—	—	1,422	18	1,440

*1 両性間性的接触を含む。

*2 輸血などに伴う感染例、推定される感染経路が複数ある例を含む。

*3 平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。

*4「血液凝固異常症全国調査」による2019年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数

感染症法施行後の任意報告数(平成11年4月1日～平成30年12月30日)	440 名
エイズ予防法 ^{*5} に基づく法定報告数(平成元年2月17日～平成11年3月31日)	596 名
凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数 ^{*6}	720 名

*5 エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。

*6 「血液凝固異常症全国調査」による2019年5月31日現在の報告数

感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報

HIV感染者及びエイズ患者の都道府県別累積報告状況
(令和元年9月30日～令和元年12月29日)

ブロック名	都道府県名	HIV感染者						エイズ患者					
		今回		前回		累 計		今回		前回		累 計	
		報告地	〔居住地〕	報告地	〔居住地〕	報告地	〔居住地〕	報告地	〔居住地〕	報告地	〔居住地〕	報告地	〔居住地〕
北海道	1 北海道	5	〔5〕	6	〔7〕	360	1.7%〔238〕〔2.1%〕	5	〔4〕	2	〔2〕	211	2.2%〔119〕〔2.3%〕
東北	2 青森県	1	〔0〕	0	〔0〕	62	0.3%〔27〕〔0.2%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	35	0.4%〔16〕〔0.3%〕
	3 岩手県	0	〔0〕	1	〔1〕	33	0.2%〔14〕〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	39	0.4%〔17〕〔0.3%〕
	4 宮城県	4	〔5〕	2	〔2〕	159	0.7%〔84〕〔0.7%〕	1	〔1〕	1	〔0〕	105	1.1%〔62〕〔1.2%〕
	5 秋田県	1	〔1〕	0	〔0〕	24	0.1%〔9〕〔0.1%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	25	0.3%〔13〕〔0.3%〕
	6 山形県	0	〔0〕	0	〔0〕	31	0.1%〔16〕〔0.1%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	28	0.3%〔8〕〔0.2%〕
	7 福島県	1	〔1〕	3	〔3〕	91	0.4%〔56〕〔0.5%〕	2	〔2〕	0	〔0〕	61	0.6%〔32〕〔0.6%〕
	ブロック計	7	〔7〕	6	〔6〕	400	1.8%〔206〕〔1.8%〕	5	〔5〕	2	〔1〕	286	3.0%〔148〕〔2.9%〕
関東・甲信越	8 茨城県	1	〔2〕	1	〔2〕	561	2.6%〔163〕〔1.4%〕	0	〔1〕	0	〔0〕	337	3.5%〔99〕〔1.9%〕
	9 栃木県	7	〔6〕	4	〔2〕	276	1.3%〔95〕〔0.8%〕	2	〔1〕	1	〔1〕	212	2.2%〔70〕〔1.4%〕
	10 群馬県	5	〔6〕	6	〔4〕	224	1.0%〔102〕〔0.9%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	157	1.6%〔57〕〔1.1%〕
	11 埼玉県	11	〔16〕	6	〔11〕	601	2.8%〔530〕〔4.7%〕	2	〔4〕	7	〔8〕	394	4.1%〔237〕〔4.6%〕
	12 千葉県	6	〔4〕	7	〔9〕	898	4.1%〔504〕〔4.5%〕	2	〔2〕	3	〔3〕	584	6.1%〔255〕〔5.0%〕
	13 東京都	94	〔73〕	77	〔59〕	8,089	37.2%〔3,468〕〔30.8%〕	17	〔14〕	23	〔21〕	2,364	24.5%〔1,065〕〔20.7%〕
	14 神奈川県	12	〔12〕	11	〔13〕	1,423	6.6%〔773〕〔6.8%〕	5	〔5〕	12	〔11〕	700	7.3%〔325〕〔6.3%〕
	15 新潟県	2	〔2〕	1	〔1〕	109	0.5%〔47〕〔0.4%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	65	0.7%〔30〕〔0.6%〕
	16 山梨県	0	〔0〕	1	〔1〕	121	0.6%〔41〕〔0.4%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	54	0.6%〔17〕〔0.3%〕
	17 長野県	2	〔2〕	1	〔1〕	332	1.5%〔85〕〔0.8%〕	0	〔0〕	2	〔2〕	214	2.2%〔65〕〔1.3%〕
	ブロック計	140	〔123〕	115	〔103〕	12,634	58.2%〔5,808〕〔51.5%〕	29	〔28〕	50	〔48〕	5,081	52.7%〔2,220〕〔43.2%〕
北陸	18 富山県	0	〔0〕	2	〔1〕	50	0.2%〔28〕〔0.2%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	38	0.4%〔21〕〔0.4%〕
	19 石川県	1	〔0〕	1	〔1〕	90	0.4%〔50〕〔0.4%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	41	0.4%〔26〕〔0.5%〕
	20 福井県	0	〔0〕	0	〔1〕	50	0.2%〔26〕〔0.2%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	35	0.4%〔25〕〔0.5%〕
	ブロック計	1	〔0〕	3	〔3〕	190	0.9%〔104〕〔0.9%〕	1	〔1〕	1	〔1〕	114	1.2%〔72〕〔1.4%〕
東海	21 岐阜県	2	〔3〕	2	〔2〕	192	0.9%〔145〕〔1.3%〕	3	〔2〕	2	〔3〕	143	1.5%〔103〕〔2.0%〕
	22 静岡県	3	〔2〕	5	〔6〕	460	2.1%〔191〕〔1.7%〕	4	〔3〕	0	〔0〕	237	2.5%〔104〕〔2.0%〕
	23 愛知県	16	〔16〕	18	〔15〕	1,310	6.0%〔767〕〔6.8%〕	8	〔7〕	7	〔5〕	660	6.8%〔492〕〔9.6%〕
	24 三重県	0	〔1〕	1	〔1〕	175	0.8%〔94〕〔0.8%〕	2	〔1〕	1	〔1〕	107	1.1%〔63〕〔1.2%〕
	ブロック計	21	〔22〕	26	〔24〕	2,137	9.8%〔1,197〕〔10.6%〕	17	〔13〕	10	〔9〕	1,147	11.9%〔762〕〔14.8%〕
近畿	25 滋賀県	1	〔1〕	3	〔3〕	96	0.4%〔59〕〔0.5%〕	1	〔1〕	2	〔2〕	80	0.8%〔46〕〔0.9%〕
	26 京都府	2	〔2〕	3	〔1〕	281	1.3%〔175〕〔1.6%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	141	1.5%〔77〕〔1.5%〕
	27 大阪府	32	〔25〕	26	〔21〕	2,774	12.8%〔1,531〕〔13.6%〕	11	〔11〕	4	〔2〕	914	9.5%〔653〕〔12.7%〕
	28 兵庫県	4	〔2〕	3	〔4〕	471	2.2%〔361〕〔3.2%〕	1	〔1〕	1	〔1〕	251	2.6%〔158〕〔3.1%〕
	29 奈良県	2	〔1〕	1	〔1〕	121	0.6%〔69〕〔0.6%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	81	0.8%〔51〕〔1.0%〕
	30 和歌山県	0	〔0〕	0	〔0〕	72	0.3%〔45〕〔0.4%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	54	0.6%〔20〕〔0.4%〕
	ブロック計	41	〔31〕	36	〔30〕	3,815	17.6%〔2,240〕〔19.9%〕	13	〔13〕	8	〔6〕	1,521	15.8%〔1,005〕〔19.6%〕
中国・四国	31 鳥取県	0	〔0〕	0	〔0〕	21	0.1%〔12〕〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	21	0.2%〔17〕〔0.3%〕
	32 島根県	0	〔0〕	0	〔0〕	21	0.1%〔13〕〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	10	0.1%〔4〕〔0.1%〕
	33 岡山県	3	〔2〕	0	〔0〕	183	0.8%〔121〕〔1.1%〕	0	〔0〕	2	〔2〕	87	0.9%〔50〕〔1.0%〕
	34 広島県	3	〔4〕	0	〔0〕	251	1.2%〔149〕〔1.3%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	132	1.4%〔102〕〔2.0%〕
	35 山口県	0	〔0〕	1	〔1〕	72	0.3%〔51〕〔0.5%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	32	0.3%〔22〕〔0.4%〕
	36 徳島県	2	〔1〕	0	〔0〕	50	0.2%〔39〕〔0.3%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	31	0.3%〔21〕〔0.4%〕
	37 香川県	1	〔1〕	1	〔1〕	76	0.4%〔55〕〔0.5%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	52	0.5%〔40〕〔0.8%〕
	38 愛媛県	4	〔3〕	1	〔1〕	93	0.4%〔44〕〔0.4%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	63	0.7%〔37〕〔0.7%〕
	39 高知県	0	〔0〕	0	〔0〕	48	0.2%〔33〕〔0.3%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	36	0.4%〔30〕〔0.6%〕
	ブロック計	13	〔11〕	3	〔3〕	815	3.8%〔517〕〔4.6%〕	1	〔1〕	3	〔3〕	464	4.8%〔323〕〔6.3%〕
九州・沖縄	40 福岡県	10	〔12〕	13	〔13〕	647	3.0%〔469〕〔4.2%〕	14	〔15〕	4	〔4〕	363	3.8%〔286〕〔5.6%〕
	41 佐賀県	0	〔0〕	2	〔2〕	47	0.2%〔45〕〔0.4%〕	1	〔0〕	0	〔0〕	24	0.2%〔25〕〔0.5%〕
	42 長崎県	1	〔1〕	1	〔1〕	61	0.3%〔37〕〔0.3%〕	0	〔0〕	2	〔2〕	40	0.4%〔23〕〔0.4%〕
	43 熊本県	0	〔0〕	0	〔0〕	110	0.5%〔64〕〔0.6%〕	2	〔2〕	0	〔0〕	72	0.7%〔52〕〔1.0%〕
	44 大分県	0	〔0〕	0	〔0〕	67	0.3%〔43〕〔0.4%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	43	0.4%〔31〕〔0.6%〕
	45 宮崎県	2	〔2〕	0	〔0〕	66	0.3%〔52〕〔0.5%〕	1	〔1〕	1	〔1〕	50	0.5%〔39〕〔0.8%〕
	46 鹿児島県	2	〔2〕	3	〔2〕	110	0.5%〔79〕〔0.7%〕	1	〔1〕	3	〔3〕	78	0.8%〔51〕〔1.0%〕
	47 沖縄県	3	〔3〕	3	〔2〕	268	1.2%〔169〕〔1.5%〕	3	〔3〕	2	〔2〕	140	1.5%〔76〕〔1.5%〕
	ブロック計	18	〔20〕	22	〔20〕	1,376	6.3%〔958〕〔8.5%〕	22	〔20〕	12	〔12〕	810	8.4%〔583〕〔11.4%〕
合計		246	〔219〕	217	〔196〕	21,727	100%〔11,268〕〔100.0%〕	93	〔85〕	88	〔82〕	9,641	100%〔5,136〕〔100.0%〕

※（報告地）：昭和60年から集計

※（居住地）：最近数年間の主な居住地（平成19年4月から記載）

※天然免疫不全症候群発生届出（抜粋）
①最近数年間の主な居住地
②日本国内（都道府県）
③不明

熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱

制定	平成 8 年 6 月 1 7 日	市長決裁
改正	平成 1 0 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 1 1 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 1 4 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 1 8 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 2 1 年 6 月 3 0 日	感染症対策課長決裁
	平成 2 2 年 1 0 月 1 日	感染症対策課長決裁
	平成 2 4 年 4 月 1 日	感染症対策課長決裁
	平成 2 8 年 4 月 1 日	感染症対策課長決裁

(設置)

第1条 エイズについての正しい知識の普及啓発の在り方を総合的に検討し、エイズに対する偏見や差別のない「健康と生命（いのち）」を大切にするまちづくりに寄与することを目的として熊本市エイズ総合対策推進会議（以下「会議」という。）を設置する。

(協議事項)

第2条 会議は、次の事項について協議する。

- (1) エイズの正しい知識に関する広報・啓発に関すること。
- (2) エイズ相談及び検査に関すること。
- (3) 関係機関との連絡、調整及び協力に関すること。
- (4) その他この要綱の目的の達成に必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 会議は、20名以内の委員によって構成する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 保健・医療関係者
- (3) 教育、青少年団体関係者
- (4) 人権擁護関係者
- (5) 企業・事業所関係者
- (6) 労働団体関係者
- (7) 報道関係者
- (8) ボランティア団体関係者
- (9) その他必要と認める者

(会長及び副会長)

第4条 会議に、会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会議を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときはその職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とし、再選を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 会議は、必要に応じて会長が招集する。

2 会長は、運営上必要があると認めるときは、委員以外のものを会議に出席させ、その意見又は説明を求めることができる。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、熊本市健康福祉局保健衛生部感染症対策課に置く。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮り定める。

附 則

この要綱は、平成8年6月17日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成21年6月30日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成22年10月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から改正施行する。

熊本市におけるエイズ対策のあゆみ

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
1986 (S61)	保健所・保健センターにエイズ相談窓口を設置	
1987 (S62)	HIV抗体検査実施（検査機関委託 有料）	
1991 (H 3)	エイズ相談及びHIV抗体検査実施要領を作成	
1992 (H 4)	エイズ対策特別予算計上 熊本市エイズ対策連絡会議を設置	世界エイズデー関連 エイズ講演会開催
1993 (H 5)	熊本市エイズ総合対策実施要領を作成 HIV抗体検査を無料で開始 熊本保健所に専門相談員を配置、英語相談開始 抗体検査の検査機器の整備と保健所で検査開始 市民病院にエイズ医療相談及び診療体制を整備	エイズシンポジウム（熊本市、サンアントニオ市）
1994 (H 6)	西保健所に専門相談員を設置 エイズ拠点病院の指定（熊本大学医学部付属病院、国立熊本病院、熊本市市民病院） 市民病院職員サンアントニオ市派遣	エイズ講演会（サンアントニオ市、ハイデルベルク市より講師招聘） 世界エイズデー関連 パネル展
1995 (H 7)	市民病院職員サンアントニオ市派遣	世界エイズデー関連 パネル展、講演会
1996 (H 8)	熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱策定 熊本市エイズ総合対策推進会議の設置と開催 市民病院職員サンアントニオ市派遣	世界エイズデー関連 エイズ・フォーラム 街頭キャンペーン、パネル展、ラジオエイズ特集放送
1997 (H 9)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	世界エイズデー関連 エイズ・フォーラム 映画「コスモス」上映、街頭キャンペーン ラジオエイズ特集放送
1998 (H10)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	高校文化祭でのキャンペーン（アンケート調査） 大学学園祭でのキャンペーン（アンケート調査） 世界エイズデー関連 街頭キャンペーン ラジオ
1999 (H11)	エイズ対策主管課を感染症対策課に移行 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 感染症新法施行、エイズ予防指針策定	高校・大学でのキャンペーン（アンケート調査） 高校・専門学校等への講師派遣 世界エイズデー関連 街頭キャンペーン ラジオ
2000 (H12)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 STD予防指針策定	高校・大学でのキャンペーン（アンケート調査） 高校・専門学校等への講師派遣、STD講演会・キャンペーン、オリジナルポスター（STD、エイズ）、 世界エイズデー街頭キャンペーン：ラジオエイズ特集放送、ARK（学生啓発ボランティア）結成
2001 (H13)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 第1回エイズ関連市民グループ合同会議開催	大学でのキャンペーン（アンケート調査） 高校・専門学校等への講師派遣 オリジナルポスター（STD、エイズ） 世界エイズデー関連 街頭キャンペーン ピアエデュケーター（ARK、PDYYY）の出前講座
2002 [H14]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 夜間エイズ相談・検査を実施（6月～）	同上
2003 [H15]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	同上、ラジオ生番組、
2004 [H16]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 日曜エイズ相談・検査を実施（5月～）	同上
2005 [H17]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	大学でのキャンペーン（アンケート調査） 高校・専門学校等への講師派遣、オリジナルポスター（STD、エイズ）、世界エイズデー関連 街頭キャンペーン、ピアエデュケーターの出前講座
2006 [H18]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 HIV即日検査を実施（水曜午前：4月～、日曜：6月～）	同上
2007 [H19]	同上	同上

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
2008 [H20]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 HIV即日検査の枠の増大（平日午後、夜間、日曜）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校でキャンペーンを実施
2009 [H21]	同上	同上
2010 [H22]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 HIV即日検査の枠の増大（平日午後受入人数を増加：11月～） 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：12月）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施
2011 [H23]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等）
2012 [H24]	同上	同上
2013 [H25]	同上	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等） Safe LOVE Kumamoto (SaLK) 結成（学生を中心とした啓発ボランティアグループ）、街頭キャンペーン実施
2014 [H26]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月） 夜間検査枠拡充及びメール予約受付の試行（6～8月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付（10月～）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 ・街頭キャンペーンの実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等） ゲイ支援サークル（KK）との連絡会、情報交換
2015 [H27]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（9月） 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 ・市人権推進総室主催「人権映画上映会（フィラデルフィア上映）」でのキャンペーン 「働く世代」への出前講座（一般企業等） 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の開始 ・高校、専門学校、イベント会場等 ゲイ支援サークル（KK※）との協働 ※28年2月に Safety Blanket に改称
2016 [H28]	（4月14,16日 熊本地震発生） 検査体制の縮小、変則実施 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月、3月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（2月）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校、市内イベント会場でキャンペーン実施 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の実施 ・高校、講習会及びイベント会場等 「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety Blanket）との協働
2017 [H29]	夜間・休日検査を休止、通常検査を予約制 特例・臨時検査の実施（6月・12月：予約不要の日曜検査、10月：予約制の夜間検査、3月：予約不要の土曜検査） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（8月）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校でキャンペーン実施 ・市学校保健会主催イベントでのキャンペーン ・エイズフォーラムの開催（JICA九州） 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の実施 ・高校、講習会及びイベント会場等 「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety Blanket）との協働

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
2018 [H30]	夜間・休日検査を休止、通常検査を予約制 特例・臨時検査の実施（6月、12月、3月：予 約不要の休日検査、7月、10月：予約制の夜間 検査） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（8月）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・エイズフォーラムの開催（JICA 九州） ・高校・大学でキャンペーン実施 ・市学校保健会主催イベントでのキャンペーン ・街頭キャンペーン実施（TSUTAYA 三年坂店） 巡回パネル展「HIV×（日常）×わたし。」の実施 ・高校、講習会及びイベント会場等 「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety Blanket）との協働
2019 [H31（R1）]	夜間・休日検査を休止、通常検査を予約制 特例・臨時検査の実施（6月、9月、12月：予 約不要の休日検査） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（8月） 新型コロナウイルス感染症対応に伴う検査体制 の縮小、中止（3月～）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・市学校保健会主催イベントでのキャンペーン ゲイ支援サークル（Safety Blanket）との協働